

カンタン施行で、くもりライトがクリアに!

Head-Light Cleaner



クリーナー

スピード液



ガラスコート剤

ヘッドライトクリーナーセット

薬剤使用によるライトクリーニング

コンパウンド・ポリッシャー等を使わず施工

レンズ表面を削らないキズつけない

焼き付き汚れもしっかり除去

ライトに焼き付いた汚れを除去し、さらにコーティングで表面を守ります。

〈ご使用方法〉

1. スピード液をスポンジの硬い側に少量取り出します。
2. ヘッドライトに、軽く撫でるように塗り込んでください。
3. 塗込み後3〜5秒程で黄色いアメ色に溶け出しますのでウエスで拭き取ります。
4. 黄色い黄ばみが取れると、ヘッドライトの表面は白いカサカサした状態になりますので、クリーナーを少量ウエスに取り出して円を描くようにこすると、残っていた黄ばみも取れます。
5. ヘッドライトの表面に水分が付いていないかを確認し、ガラスコート液をスポンジの柔らかい面に少量(10円玉程度)出し、ヘッドライトのクリアレンズ表面に伸ばすように塗り込んでください。
その後、約5分放置してください。5分以上経てば乾いたウエス(ケミカルウエス)でしっかりと拭き取ります。この時点で作業は終了ですが、もしムラのある場合は濡れタオルをしっかりと絞って拭き上げ、更にもう一度乾いたウエスで表面を拭き取ってください。



スピード液を少量取り出します。



スピード液を塗り込み、その後拭き取ります。



クリーナー液を少量取り出します。



クリーナーでこすります。



布で拭き取ります。



ドライヤーで乾かします。



ガラスコート液を少量取り出します。



ガラスコート液を塗り込みます。

注意ポイント!

湿気が残っている場合、ガラスコート剤が白く粉を吹いた状態になってしまいますのでご注意ください。

- ※冬季や湿度が高い日のガラスコート塗り込みの際、※まずドライヤーで1〜2分表面を乾燥させてください。
- ※その後、ガラスコートを塗り込み、再度2〜3分熱を※加えて強制乾燥させてください。
- ※雨の日や湿気が多い日、冬季の夕方以降の施工は避けてください。
- ※仕上がりがうまうまかかなかった場合は、クリーナー(キズ埋め剤)でこすると元に戻りますので、塗り※直してください。

※裏面の注意事項もお読みください。

薬剤使用によるライトクリーニング

Head-Light Cleaner

ヘッドライトクリナーセット

薬剤使用によるライトクリーニング

お取り扱い上の注意

- スピード液（洗剤）による表面の汚れ取り（スポンジ使用）及びクリーナー（キズ埋め剤）による焼き付いた汚れ取り、キズ埋め作業（ウエス使用）はポリッシャーなどの高回転の機材は使わず手作業で行ってください。
- スピード液、クリーナーでの作業工程は、天候に関係なくできます。
- マスキングなどの工程は必要としませんが、余程、汚れが付いたりキズが入ることが心配な箇所にはマスキングをお勧めします。
- ガラスコート剤の塗り込み時、ヘッドライト表面に湿気が残っていると、塗り込み後ムラが出たり白くなったりして、仕上がりが良くありません。
ガラスコート剤の保護膜もすぐに取りれることがあります。
- ガラスコート剤の仕上がりを良くするためにも、冬季や湿度の高い日には、必ずドライヤーなどでヘッドライト表面を乾燥させてから塗り込んでください。塗り込み後も、表面に湿気が付かない様にドライヤーなどで3分以上乾燥させてください。気温、湿度により乾燥時間に差があります。（※自然乾燥気温23℃、湿度50%以下で約30～40分です。）
- 雨の日や冬季の屋外での作業、施工は避けてください。屋内での施工の場合も、気温が低い時や湿気が多い日は、必ず加熱、乾燥を十分に行って施工してください。
- ガラスコート剤も2種類をご用意いたしております。
緑ラベルの、膜厚が厚く長期（3～5年）保護タイプ（1回塗りタイプ）と、黄色ラベルの、膜厚が緑ラベルの半分で（1～3年）保護タイプ（重ね塗りができるタイプ）です。
緑ラベルの23℃で自然乾燥30～40分に対して黄色ラベルは1時間以上となりますが、作業性はかなり良いタイプです。強制乾燥した場合、40℃以上で3分以上加熱した場合は、設定時間の約半分で乾燥します。
- ガラスコート剤塗り込み後、ムラが出たり白くなったりした場合、再度クリーナー（キズ埋め剤）から作業をやりなおしてください。
- 保存は、直射日光を避け、湿度、気温の低い所に保管してください。2年以内にご使用ください。